



いばら



公共交通かわら版

井原あいあいバスの 利用状況について

市内には鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通が走っています。今号では、井原あいあいバスの利用状況についてご紹介します。

利用者数の推移

平成25年度の井原あいあいバスの総利用者数は、約4万人で、平成24年度と比べると約1千人、平成23年度と比べると約3千人減少しています。

路線ごとに見てみますと、井原地区の野上線、子守唄の里線、芳井地区の天神峡線、美星地区の各路線においては、年々利用者数が減っています。

また、井原地区の北条早雲線、ぶどうの里線、芳井地区のごんぼう村線は、平成24年度までは減少していましたが、平成25年度には増加に転じています。

一方、井原地区の、嫁入らず観音線、馬越恭平線は、平成24年10月以降、田中美術館線を統合するなど、路線・ダイヤの見直しの効果により、利用者が増加しています。

■井原あいあいバスの利用状況

年度		利用者数（人）			
		H22	H23	H24	H25
井原地区	田中美術館線	4,591	5,277	2,723	-
	嫁入らず観音線	11,538	11,274	11,986	13,813
	馬越恭平線	9,453	10,278	11,958	13,046
	北条早雲線	7,917	6,800	6,016	6,110
	野上線	2,898	3,000	2,676	1,877
	ぶどうの里線	2,543	2,380	2,212	2,272
	子守唄の里線	1,397	1,180	925	715
	計	40,337	40,189	38,496	37,833
芳井地区	天神峡線	1,620	1,669	1,486	1,204
	ごんぼう村線	978	982	917	1,000
	計	2,598	2,651	2,403	2,204
美星地区	黒木・星田線	96	104	57	54
	黒萩・八日市線	252	262	180	139
	鬼ヶ嶽線	228	216	203	136
	計	576	582	440	329
	全路線計	43,511	43,422	41,339	40,366

※利用者数は、各年度の総利用者（のべ人数）です。

※田中美術館線は、平成24年9月末まで運行。以降は嫁入らず観音線・馬越恭平線に統合



井原市マスコットキャラクター
でんちゆうくん

利用促進に向けた取り組み

1 公共交通祭りを開催しました

市民の皆さんに公共交通に親しんでもらい、生活交通を見直すきっかけの場とすることを目的に、10月19日(日)に、井原駅前広場において、井原市公共交通祭りを開催しました。(はつらつ井原ふれあいフェスタの一環)

当日は晴天に恵まれ、抜けるような青空の中、バスやタクシーなどの車両展示やバスの乗り方教室などに大勢の方がお越しくださいました。



現存する最古のボンネットバス(昭和33年製)の展示(福山自動車時計博物館提供)

また、「バスの乗り方教室」には、親子連れ等総勢34名の参加があり、バスの運転手さんから乗車マナーや交通安全について学びました。



バスの乗り方教室の様子。皆さん熱心に説明を聞いています。



バスの運転席で帽子をかぶって「ハイ、ポーズ！」気分はまさに運転手！

2 バス体験学習会を開催しました。

井原市公共交通会議では、子どもたちにバスに親しんでもらい、バスの将来的な維持継続に向けた利用促進につなげることを目的に、市内の小学校・幼稚園において「バス体験学習会」を開催しています。

本年は、これまでに木之子幼稚園、大江幼稚園、出部幼稚園、美星幼稚園、県主小学校・幼稚園で開催し、幼稚園児・小学生は実際の車両を使ってバスの乗降方法や、乗車マナー、交通安全について学びました。



県主小学校では、幼稚園児・小学1年生の計16名が参加しました。

10月29日(水)に開催した、県主小学校・幼稚園での体験学習会は、公共交通会議の委員による視察もあわせて行われ、参加した委員からは、「子どもの頃にバスに乗ったことがあるという経験は、大人になってからのバス利用に大きく影響すると思う。」「体験学習会で学んだことを家に帰って家族に話し、家族の話題となることで、大人にとつての普及啓発にもつながると思う。」といった意見・感想が出されました。

体験学習会は、今後も小学校・幼稚園からの申込みに応じて随時、開催する予定です。



一人ひとり運転席に座って、運転士から死角になるところを確認しています。